

が中国で不法に逮捕されている件に関する陳情

船橋市議会議長 渡辺 賢次 様

[願意]

人道的な立場から、不当な扱いを受けているの境遇にご関心をお持ちいただき、一刻も早く救出すべく、駐日中国大使館及び日本の外務省に働きかけること。

[理由]

私はと申します。8年前留学のため中国大連から来日しました。大学卒業後東京の弁護士事務所で働いています。中国で逮捕拘留されている「」の救援にご協力賜りたく、お願いを申し上げます。

は54歳で、遼寧省大連市に住んでいます。2021年6月2日に、が一人で自宅にいた際、法輪功を修煉していることを理由に現地の警察に押し入れられ、強制連行され、現在留置場に拘束されています。

元々体が弱いは31歳（私は5歳）の時、病院で胃がん末期と診断され、「手の施しようがない」と、最期を宣告されました。その時に、親戚に法輪功を紹介され、藁にもすがる思いでは法輪功を始めました。幸運なことには奇跡的に快復しただけでなく、その後二十数年に渡り、一度も病院に行くことなく、健康を維持してきました。

しかし、1999年7月20日、当時の国家指導者、江沢民は、嫉妬心から法輪功への残忍な迫害を開始しました。拷問迫害による死亡者は、身元が確認できた人数だけでも4000人以上に達しており、実際の人数は統計することすらできないと言われています。法輪功に対する迫害の中で、大連は最も厳しい迫害を受けた地域の一つです。大連市長であった薄熙来は率先して、法輪功学習者から

生きたまま臓器摘出を行うことを考え、それを瞬く間に全国に広め、臓器摘出から遺体の販売まで一貫して行う殺人産業を形成し、地球上にかつてない邪悪を造り出しました。

中国共産党政府の血に染まった手によって、健康体となった■から臓器が収奪される可能性さえあります。そして■が一日でも長く拘留されれば、その分拷問に遭うリスクも高くなるのです。また警察に拘束されている状態では法輪功の修煉ができないため、がんが再発する可能性も否定できません。

これらの理由から、■を一刻も早く救出すべく、下記のとおり、要望いたします。

私は■と一緒に法輪功を修煉していたため、もし日本から中国に帰れば、飛行機から降りた途端に逮捕される恐れがあります。そのため、この8年間、大好きな■が亡くなった時も中国に帰ることができませんでした。■の不法逮捕によって、悲しみと不安と無力感に苛まれている私に、どうかお力をお貸しくださいますよう、切にお願い申し上げます。